

五感を越える。
未知の領域へ、
アクセスする。

ダウジングって何ですか？



誰でしょう？

ペンデュラムを

動かしているのは。

自分の潜在意識に自分で
電話をかけられるのだから、
あえて他人の潜在意識を
借りる必要はないんだって
わかりますね。

自分が信頼できる相手に
電話をかければいいわけ。



僕の場合、考えて努力したことは、
何ひとつ叶っていません。
それより、
偶然起こったことから
思いもしない結果に導かれたり、
頑張らないときの方が、
うまくいききました。



写真撮影 桜井 飛鳥
ブックデザイン ホノカ社
コラム原稿 加藤 展生、ホノカ社

まえがき 占いでも、超常現象でもありません

JSD日本ダウジング協会 加藤 展生

まず、僕がダウジングという分野に取り組むことになった経緯を、少しお話させていた
だこうと思います。

最初にダウジングのことを知ったのは、小学生の頃に夢中で読んでいた科学雑誌です。
Lロッドを紹介していて、地中の水道管を探す方法が掲載されていました。好奇心旺盛な
少年だった僕は、針金を折り曲げてLロッドを自作し、雑誌に書いてあるとおりに握って
歩き、水道管を探しました。そして、水道管の上でたしかに自然とLロッドが動いたので
した。

「不思議だ、面白い！」
と、ひどく興奮した記憶はありますが、ただ当時は、それ以上何に使えるのか思いつき

もしなかったせいかな、それきりダウジングのことは忘れてしまいました。

30歳を過ぎた頃、僕は工業製品メーカーで営業をしながら、ヒーリングサロンを立ち上げる準備をしていました。

あるフラワーエッセンスの講習会に出席したとき、エッセンスのレメデイをペンデュラムで選ぶ技法を教えており、そこで初めてダウジングを学びました。

イギリスのクリスタルヒーラーを招いて、ワークショップを開いたときのこと、運命的な出会いが待っていました。

「いったい、それは何なのですか？」

と、思わず聞いたほどです。そのクリスタルヒーラーは、クリスタルが専門分野だというのに、真鍮製のペンデュラムを使っていました。ちなみに、後で知ったことですが、なぜ真鍮製かと言えば、物質的にニュートラルで外部からの影響を受けにくいからです。逆に、天然石はエネルギーを記憶しやすい性質があります。

「これは、エジプトの神聖図形（ジェド／Djed）に起源をもつイシスペンデュラムです。ホワイトカラーを放ちます」

と、そのヒーラーは解説してくれました。どうやら、古代エジプトの神秘形状学に基づいていることは把握できたのですが、

「そのホワイトには、赤、オレンジ、黄色、緑、青、インディゴ、紫の7色が内包されています。だから、メンタルコマンドで、その7色のうちのひとつを選び出して使うこともできます」

こんなふうの説明されても、当時の僕にはさっぱりわかりませんし、そもそも日本にはそんなペンデュラムなどまったくありませんでした。

とはいえ、ダウジングとはYES／NOを聞くだけでなく、エネルギーそのものを扱う技術だということがぼんやり見え、僕はその神秘の世界に魅了されていました。

当時、僕は38歳。妻と3人の子どもがいて、マイホームのローンを背負っていて、つまり人生でいちばんお金が必要な時期でしたが、何の前触れもなく会社を辞め、退職金のすべてを使ってダウジング用のペンデュラムを購入して家に帰ってくると、妻の最初の一言は「……それ何？」でした。こうして、僕の家族も僕自身も何だかよくわかっていない中で僕のダウジング人生は始まり、「もっと知りたい！」という思いだけでイギリス、アメリカ、カナダ、フランスに飛びました。

ただ、その特殊な形のペンデュラムを手にしたものの、使い方がわかりません。唯一の

情報源は、フランス語の古文書のようなもので、たとえフランス語ができたとしても読み解けないような難解なものでした。アメリカにその本を英訳している人がいるというので、さっそく渡米し、英語版を入手しました。そうして、3冊のテキストをもとにひとまず独学で学んでいったものの、4冊目のテキストには「これまで言ってきたことが間違っていたので忘れてください」と書いてあり……、長い謎解きゲームが始まりました。

それでも、何度となく欧米を渡り歩いて、ペンデュラムの使い手であるダウザーたちと交流していく中で、少しずつ、隠されていた叡智^{レイジ}に触れていくことができたのです。

ヒーリングセラピストとして

2005年から美輪明宏さんと江原啓之さんとの「オーラの泉」(テレビ朝日系列)が放送され、スピリチュアルブームが始まっていました。ヒーラーやセラピストが皆、江原さんのようなリーディングを求められた時期でもあり、僕も透視リーディングの真似事をしていたことがあります。

その頃の僕は、まだまだダウジングは研究段階でしたが、会社を辞めて独立し、ヒーリングセラピストとして活動を始めていました。正直に言えば、奇跡と神秘の世界にただ憧れていて、いきなり会社を辞めたときも、どこかで「特別な力が手に入れば、飯を食うには困らんだろう」という根拠のない安心感もありました。

そんな力を求めれば、おのずと身に付いていくものなのでしょうか。僕はすっかりその気になってオーラの色を言ってみたり、電話がかかってきただけで、その人の病気がわかったり、未来に起こる交通事故のイメージが浮かんで、その事故を避けるように伝えてみたりと、得意になっていました。

それがあるとき、
「あなたは何かを見ているかもしれないが、すべてを見ているわけではないから、わかったようなことは言わない方がいい」

こう忠告してくれる人がいました。とはいえ、当時の僕は遠隔ヒーリングをしただけで、クライアントの脳腫瘍を消したなんて体験をしたほどだったので、そんな忠告など耳に届きませんでした。

苦い、しくじり、から得たこと

不妊症に悩む女性がヒーリングを受けに来たときのことです。彼女が赤ちゃんを抱いて

僕のサロンに立っているイメージが見えたので、「あなたは、子どもを授かるよ」と伝えました。

数ヶ月後、実際に「妊娠しました」と喜びの報告があり、僕はいわゆるその手の能力が開発されたと自信を持ちました。

ただ彼女は、お腹を出すような服を着て、高いヒールを履いていて、妊娠前と同じ生活習慣だった印象があり、何度となく彼女に忠告をしていたのですが、後に「流産しました」という涙ながらの報告が入ってきました。僕のリーディングは間違っていただけでなく、彼女を振り回してしまったのです。

しばらくしてから、彼女がサロンに来てくれたのですが、そのとき赤ちゃんを抱いていました。友人の赤ちゃんを預かっているとのことでした。それは、まさにかつて僕が見たイメージであり、その赤ちゃんを、彼女自身の子だと思い込んでいたのです。

そのときから僕は、自分が見たイメージを得意になって話すことをやめ、霊能力者まがいのこともやめました。

ただ、この苦いしくじりを通して僕が理解したことがあります。透視リーディングのように、特別な能力で何か情報を得ても、それがすべてとは限らないということ。そして、

仮に何らかの情報を得たなら、丁寧かつ慎重に解釈する必要があるということ。

じつは、ダウジングを研究し続けていくにつれて、この技術とはまさに僕自身に足りなかった要素を、うまくカバーしてくれるものだとなったのです。

誰でも五感を越えた領域を使っている

ペンデュラムなどのシンブルなツールを使って、潜在意識からの情報を筋肉の微細な動きに反映させる技法が、ダウジングです。

つまり、五感を越えた領域から情報を得ることができ、さらに私たちが影響を受けているさまざまなエネルギーを変えることもできます。しかも、練習さえすれば誰でもできるようになります。ダウジングは、特殊な能力など持たない普通の人に役立ってこそ価値があるものです。もし、超能力者にしかできないのなら、その存在意義は極めて薄い。

今日は何を食べるか、誰と会うか、どう過ごすか、何時に就寝するか。誰しも日々の無数の選択を経験によって判断しますが、感覚で決めていることも多いでしょう。人は人生における最大かつ重要な選択である進学、就職、結婚ですら、感覚で決めると言います。それは、虫の知らせや直感といった言葉で表せますが、五感を越えた何かを多くの人が感

じているはずです。

よく言われるように、物質的にも精神的にも豊かに生きている人は、五感を越えた領域を大切にしています。

けれども、普通の人間である私たちは、霊能者にも超能力者にもなる必要はありません。誰でも確実かつ安全に、未知なる領域から情報を得て、活用する方法があるからです。

ダウジングを役立てていくために

現在では、ダウジングを一般の人にこそ広く役立ててもらうことが、僕のライフワークになっています。とはいえ、どんな言葉を選び、どう伝えていけば良いのか、模索を続けているのも確かです。

興味をもってもらえる人は特定の層に限られており、まだまだ占いや超常現象、あるいは宝くじを当てるものといったイメージが多数を占めているようです。

そんなとき、田口ランディさんとの出会いは、大きな転機となりました。

ランディさんは、作家として人の心の問題と向かい合い、かつ驚くべき好奇心をもってUFOや宇宙人、超能力など、精神世界やスピリチュアルの分野にも果敢に取り組んでこ

られました。さらに、僕が主催した海外ダウザーのワークショップで学んでいた上
で、ダウジングを自身の講座でも取り入れ、受講生に大きなインパクトを与えています。

今回、神奈川県湯河原町の仕事場におじゃまして、ランディさんにお話を伺う機会を持
つことができました。

言葉の専門家であるランディさんが、ダウジングや眼に見えない世界のことをどう解釈
して表現しているのか。そして、この技術をどうとらえ、潜在意識という無限の泉にアク
セスしていけば良いのか、とことん掘り下げていきます。

いったい、眼に見えない世界には、何があるのでしょうか？

それでは、未知の領域に踏み入れる瞬間を、皆さんと一緒に体験していきましょう。



JSD日本ダウジング協会 会長

加藤 展生

1965年静岡県掛川市生まれ。1998年より、整体師・ヒーリングセラピストとして活動を始める。さまざまな問題を抱えた人々を施術するうち、既存のヒーリング手法に限界を感じ、「ほんとうに人を癒やすものは何か?」と模索する中、神聖幾何学形状エネルギーを利用したダウジングヒーリングと出会う。ダウジングの本場である欧米の研究者やプロフェッショナルダウザーのもとで学んだ後、2012年にJSD日本ダウジング協会を設立。全国でワークショップを開催し、ダウザーの育成を進めている。著書に『エナジーダウジング』(ホノカ社)がある。趣味は、アサガオの栽培、登山、テニス。



作家

田口 ランディ

東京都生まれ。1990年代後半からメールマガジンを配信、購読者数10万人を獲得。2000年6月に長編小説『コンセント』がベストセラーとなる。その後、作家として活動。小説以外にもエッセイ、旅行記、ノンフィクションなどを幅広く執筆。社会的な重いテーマからSF、オカルト、仏教とボーダレスな作品群。2001年に『できればムカつかずに生きたい』で婦人公論文芸賞を受賞。2016年より精神世界・スピリチュアル分野に特化したwebマガジン「ヌー!」を発行している。新刊『逆さに吊るされた男』は、地下鉄サリン事件実行犯の死刑囚との交流を描いた私小説。

目次 ダウジングって何ですか？

まえがき

占いでも、超常現象でもありません …… 7

column ダウジングとは？ …… 24

column ダウジングでできること …… 26

column 現代のダウジング「エナジーダウジング」 …… 28

ペンデュラムは、自分で動かすもの？ …… 31

ペンデュラムを動かすのは「あなた」 …… 32

「びっくり」が、いちばんクリエティブ！ …… 37

潜在意識と仲良くなる方法 …… 40

エネルギーは、換えることができる？ …… 43

百発百中の幻想を越えるには？ …… 46

眼に見えない領域を説明する能力とは？ …… 49

column はじめてのダウジング …… 52

眼に見えないものを信じています！ …… 59

「私が行くと、UFO出てこないんです。」 …… 60

ランディのダウジング初挑戦 …… 66

III

どこに「電話」をかけますか? ……68
「形」のエネルギーを感じますか? ……72
エネルギーは、色で識別できる ……75

ランデイの仕事場でエネルギーチエック ……79

まずは調和エネルギーを見つける練習から ……80
究極のエネルギーがあつた! ……93

column どう影響する? ジオパシックストレス ……99
column イシスペンデュラムによるセルフヒーリング ……104

フォーカスを変えて、良いものを探す ……109

「形」は、宇宙共通言語? ……110
ダウザーとゴーストバスターリング ……113

IV

「良いものから探す」発想を持つ ……115
状況ではなく、フォーカスするものを変える ……118

column ペンデュラムをどう選ぶ? ……121
column スーザン・コリンズのダウジング・プロトコル ……126

他者を媒介にして、言葉を紡ぎ出す ……133

指でダウジングする「指談」とは? ……134
情報源は、エナジー・ソース ……136
得られた答えは、ほんとうに正しい? ……139
看取りの場面で紡がれる言葉 ……141
思考を意識しつつ、ぼやっとする ……143
コミュニケーションのカギとは? ……145
ランデイが考える「耳の魔法」が成立する条件 ……147

V

VI

column 指でYES／NO ボディダウジング	151
column 小さくとも「伝わる力」を感じて、思いを受け取る	152

「存在の仕方」を意識するということ

軸はひとつではなく、無数にある	156
「当たる」「当たらない」は、いりません!	159
自分自身が「環境」になるということ	160
一瞬で治るものは、一瞬で戻る?	162
トマトジュースとのコミュニケーション	164
言葉自体に固有のエネルギーがある	167
精神筋力を鍛えるトレーニングとは?	170

VII

エネルギーを整えるシンプルな方法

エネルギーには、良いも悪いもない	176
丸は、最初の神聖図形	179
エネルギー調整で、町に鳥が戻ってきた	182

神秘を現実に活かすために

186

あとがき